

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [中洲学区]

平成 25 年 8 月 21 日（水）午後 8 時から中洲会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

中洲学区にお住まいの住民 15 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：本城学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲結果を発表してみんなで共有

テーブル毎に中洲学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました

- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された中洲学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、地域でお金を出し合って助け合う仕組み「講」が抜けているという意見がありました。伊勢講、愛宕講、頼母子講（融通講）、行者講など、目的に応じてさまざまな「講」を活用してきた中洲の歴史・文化が感じられました。また、中洲地区の世帯数分のイルミネーションを飾る「ふれあいの灯」は外せないという意見がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「野洲川や伏流水に親しめなくなっている状況」と「少子高齢化と人口減少」、「地域へのつながりの希薄化」の3つが各テーブルから共通して上げられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「野洲川で水や自然に親しむことのできる仕組み、河川敷の公園化、きれいな水が里中を流れホテルが飛びまち」、「人口減少を食い止めるため、地区計画の検討・策定を進める」、自治会単位ではなく「学区全体で協力できることを考える」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。



■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

人のつながりの強さや人柄の良さといったものが、少子高齢化によって薄れつつあるなど、たからものが「たからであったもの」になりかけているという意見が出ていた。課題の中に、水路に水が流れなくなったという意見があったが、滋賀県では川から埋渠で綺麗な水を引いている所がいくつかあり、昔は幸津川でも行われていたとのことであった。発想を変えて自由に考えると、何か次に繋がることも出てくるのではないかとと思う。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp